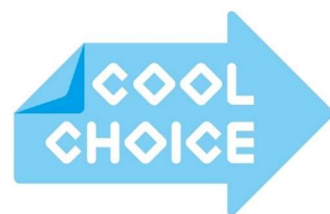


環境経営レポート

対象期間

令和4年10月～令和5年9月

全ては幸せになる為、豊かな地域づくりに貢献する



NOHARA

野原建設株式会社

発行：令和 5年 11月 17日

～ 目次 ～

◆ ご 挨 拶	-----P2
◆ 会 社 概 要	-----P3
◆ 環境経営方針	-----P4
◆ SDG s の取り組み	-----P5
◆ 環境経営システム実施体制	-----P6
◆ 環境経営目標〈中長期目標〉	-----P7
◆ 環境経営目標と実績 〈令和 4 年 10 月～令和 5 年 9 月〉	-----P8
◆ 環境経営計画の内容・取組結果の評価	-----P10 ～ P17
◆ 次年度環境経営計画	-----P18
◆ 建設業に関わる主な関連法規	-----P19
◆ 代表者による全体の評価と見直しの結果	-----P20

ご挨拶

現在、環境問題は早急な対応が必要とされ、地球温暖化、森林破壊、オゾン層破壊など、個人レベルでの取り組みでは容易に解決できない状況に陥っています。会社全体でエコアクション21に取り組むことにより、社員ひとりひとりが様々な問題の現状を認識するようになりました。

また、環境マネジメントシステムを理解することにより、環境問題を企業の経営に関連付けて考え、環境保全への取り組みに着手していくための道標にしたいと考えています。そして、日々の仕事の中という一番身近な所から「持続可能な社会」への取り組みを考えて行動ができる資質を、社員ひとりひとりが身に付けていければと願っています。

社員一丸となってアクションしていくことで、環境に与える悪影響が少ない社会へ向けての新たな行動を起こすきっかけとしていきたいです。さらに、実践を積み重ねていく上で、効果的なアクションについても発信し、一企業として自然環境へのダメージが最小限になるよう、配慮の行き届いた経営を目指していく所存です。

野原建設は標高 750m の自然豊かな山間の地に生まれ、地域の方々に愛されながら 100 年の歴史を歩んできました。自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして野原建設はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一步一步着実に環境経営に取り組んでいけたらと願っています。

野原建設株式会社

代表取締役 野原 一司



会社概要

【名称及び代表者名】

野原建設株式会社

代表取締役 野原 一司

【所在地】

〒939-2513

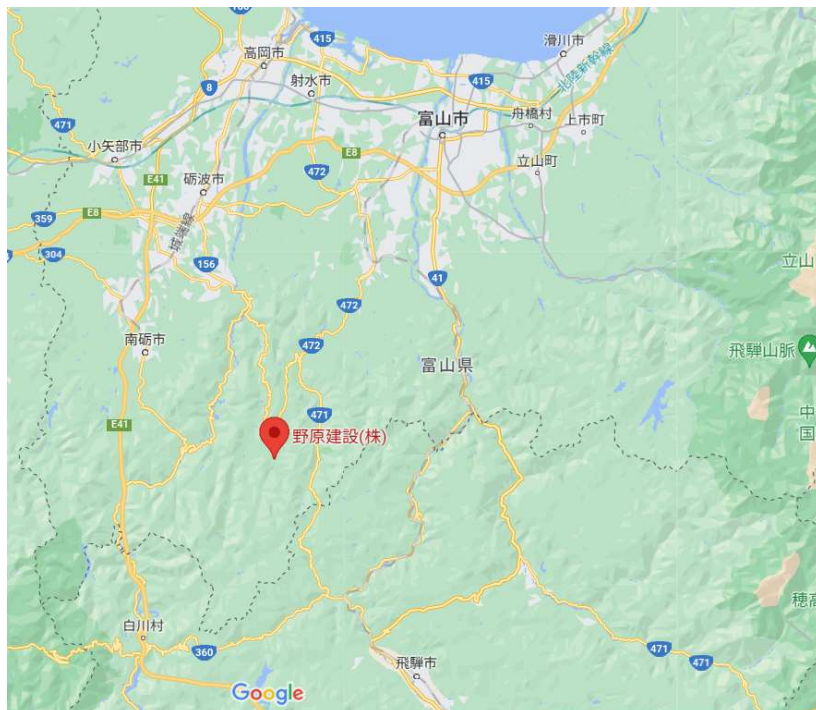
富山県南砺市利賀村上百瀬 165

連絡先 TEL 0763-68-2136

FAX 0763-68-2608

E-mail : toga-nk@p1.tst.ne.jp

H P : <https://www.toga-nk.jp/>



【環境管理責任者及び担当者】

環境管理責任者 (主) 山田 徹

(副) 蟹澤 悠也

環境事務担当者 蟹澤 佳苗

【事業内容】

【特定建設業】土木工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業、解体工事業

【一般建設業】建築工事業、管工事業、塗装工事業

【事業規模】

創 業	大正3年8月1日	設 立	昭和52年12月17日
資本金	2100万円	売上高	3億9600万円(令和5年度)
従業員数	21 名	事業所/倉庫床面積	282㎡ / 484㎡

【認証・登録対象範囲】 全組織・全活動が認証対象範囲とする

事業所名及び所在地	野原建設株式会社 〒939-2513 富山県南砺市利賀村上百瀬 165
対象事業所	本 社
活 動	建設工事業（一般土木工事、建築工事、道路除雪作業）

環境経営方針

- (1) 当社の事業活動に関連する環境関連法規を定期的に確認し、社会的要求事項を順守し、発注者並びに利賀地域の自治振興会との協調連帯を図ります。
- (2) 環境経営方針達成を目指し、環境経営目標・環境経営計画を策定し、全社一丸となって利賀地域の環境保全活動の推進に努めます。
- (3) 全従業員のみならず関係者一同が理解・行動できるよう、環境経営方針の周知に努め環境教育や啓発に力を注ぎます。
- (4) 以下の項目について取り組みます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物排出量の削減
 - ③ 総排水量の削減
 - ④ 環境に配慮した商品の購入
- (5) 環境経営レポートを社内外に公表し、地域社会の一員として社会貢献活動を積極的に推進します。

平成 21 年 10 月 1 日 制定

令和 5 年 4 月 30 日 改定

野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司



SDG s の取り組み

当社は、南砺(なんと)市におけるSDG s(持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals)を取り入れたまちづくりに賛同し、なんとSDG sパートナーに登録しています。そして、南砺市と共にSDG sの達成につながる取組みを実施しています。



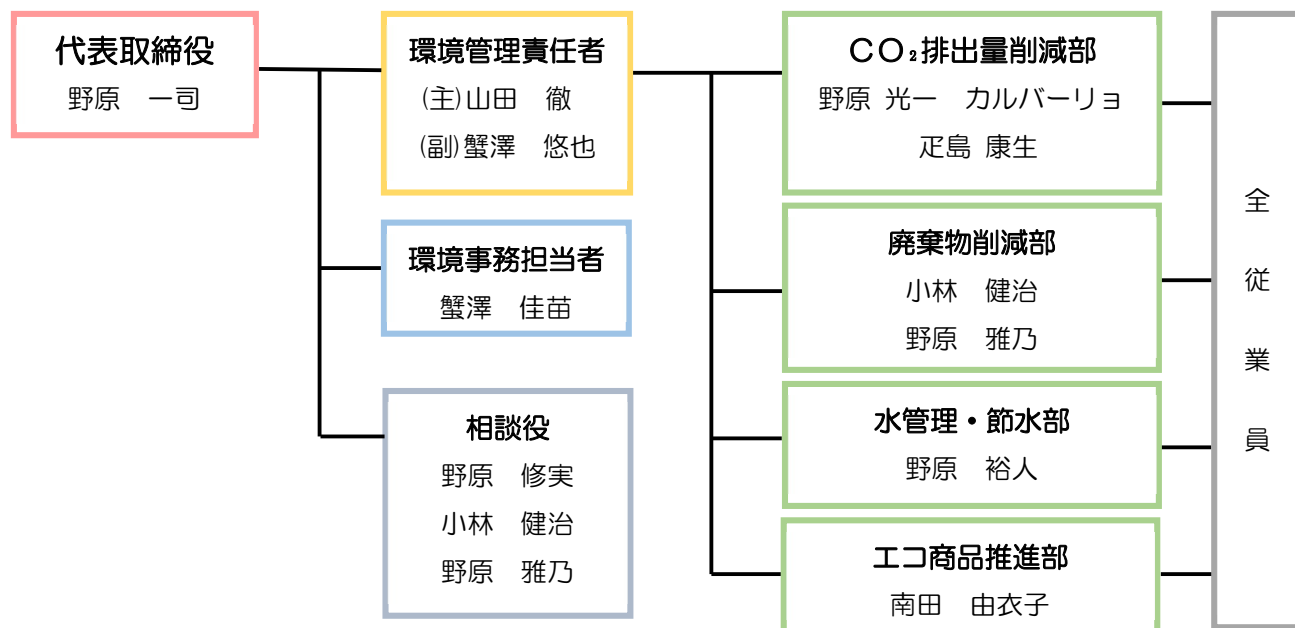
【当社の取り組みに関するSDGsのゴール】



【SDG sの取組み内容(対応する番号)】

- 災害時において建設機械等を応急対策に提供し、地域の安全を守ります。(11 13 17)
- 従業員の消防団加入及び活動を推進し、地域の安全を守ります。(8 11 13 17)
- 青年団や地域づくり協議会など各種団体の行う地域活動に協力し、地域の環境美化や振興に参画します。(3 4 11 17)
- 女性の活躍できる環境整備、男性の育児休業取得などを推進し、ジェンダー平等と一人一人が活躍できる環境を目指します。(3 5 8 10)
- チェックシートを用いた節電節水対策のほか、電気自動車の購入によるクリーンエネルギー化に取り組みます。(6 7 13 14)

環境経営システム実施体制



役職	氏名	役割・責任・権限
代表取締役	野原 一司	- 環境経営に関する統括責任 - 環境管理責任者、環境事務局員を任命する - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員の周知 - EA21 全体の取組状況に関し、評価・見直しを実施する
環境管理責任者	(主)山田 徹 (副)蟹澤 悠也	- EA21 の要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し環境実績を向上させる - 環境経営計画書の承認 - 環境経営の取組結果を代表者へ報告
EA21 担当者	蟹澤 佳苗	- 環境管理責任者の補佐 - 環境経営計画書の作成及び実績集計 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部 門 長	野原 光一 カルバーリョ 疋島 康生 小林 健治 野原 雅乃 野原 裕人 南田 由衣子	- 自部門における環境方針の周知 - 自部門に関連する環境経営目標、環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 特定された項目の書類作成及び運用管理 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
相談役	野原 修実 小林 健治 野原 雅乃	- 環境管理責任者、各部門長の取組への支援 - 代表取締役による環境経営の補佐 - EA21 の計画・取組へのアドバイス
全従業員	各自	- 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 - 実施事項を守り、自主的・積極的に環境経営へ参加

環境経営目標〈中長期目標〉

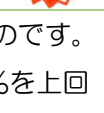
項目		基準年度 H29-R3 平均	R5 年度 目標	R6 年度 目標	R7 年度 目標
CO ₂ 排出量 削減	CO ₂ 総排出量	357,923kg	357,923kg	387,000kg	387,000kg
	電気使用量	6,563kWh (R3-R4 平均)	6,400kWh	6,700kWh	6,700kWh
	ガソリン使用量	27,783L (R3-R4 平均)	26,400L	26,500L	26,500L
	除雪高に対する 軽油使用量	1,899.9 kg / 百万円	1,899.9 kg / 百万円	1,311 kg / 百万円	1,300 kg / 百万円
廃棄物排出量削減 (可燃ごみ)		133.5kg	123.0kg	120.0kg	120.0kg
産業廃棄物 再生資源利用率		100%	100%	100%	100%
総排水量削減 (凍結期間を除く)		43.8 m ³	40 m ³	40 m ³	40 m ³
事務用品のグリーン商品 購入率		70.7% (R4)	75%	-	-
グリーン商品等 購入実施の有無		-	-	実施	実施

目標設定においては、H29-R3 年度の平均値とし、各項目の排出量を下回ることを目指しています。尚、電気およびガソリン使用量については、R3 年度の従業員数と設備の増加に伴い、R3 年度を起点とした平均値としています。

グリーン商品の購入推進の目標については、R6 年度以降は行動目標とし、環境に配慮した商品の購入実施を目指します。

当社では化学物質の使用はありません。

環境経営目標と実績

項目		H21 年度 実績	R5 年度 目標	R5 年度 実績	R5 年度 達成率	評価
CO ₂ 総排出 量削減	CO ₂ 総排出量	296,391kg	357,923kg	332,644.1kg	107.6%	
	電気使用量	7,093 kWh	6,400 kWh	6,738kWh	95.0%	
	ガソリン使用量	23,808 L	26,400 L	25,476.5L	103.6%	
	除雪高に対する 軽油使用量	3713.3 kg / 百万円	1,899.9 kg / 百万円	1,080.2kg / 百万円	175.9%	
廃棄物 排出量 削減	可燃ごみ	224.85 kg	123.0 kg	113.5kg	108.3%	
	産業廃棄物の 再生資源利用率	-	100 %	100%	100.0%	
総排水量(凍結期間を除く)		49 m ³	40 m ³	34 m ³	117.6%	
事務用品のグリーン商品 購入率		70.7 % (R4 実績)	75.0 %	83.6%	111.4%	

上の表は、エコアクションに取り組み始めた当初年度(H21 年度)と今年度の目標・実績を表したものです。
※達成率について、目標値/実績値 として算出しており(グリーン商品は 実績値/目標値)、100%を上回れば目標を達成できたと判断します。

【実績に対する評価】

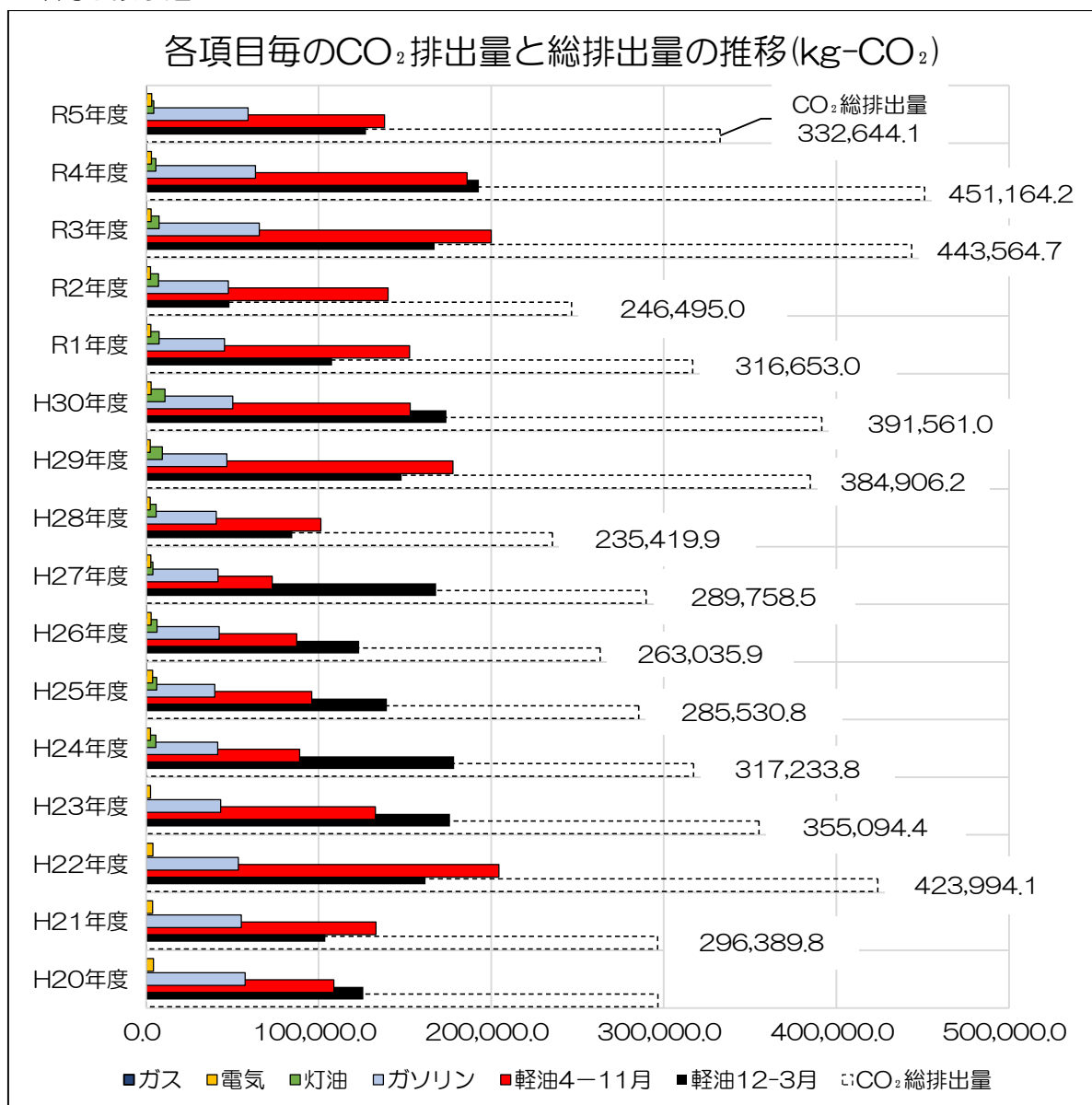
今年度は電気使用量を除くほぼすべての項目では、目標を達成できました。その中でも、除雪高に対する軽油使用量については-43.1%、更に当初年度からは約 71%もの CO₂の排出量の削減ができました。これは除雪オペレータの静かな運転をはじめ、社員の皆さんが売上高の向上に貢献したことへの努力の賜物といえます。

ただ、電気使用量は目標達成率に 5%届きませんでした。電気使用量超過の要因として、厳冬期でのエアコンの使用量の増加が挙げられます。

以上の結果を受けて、目標を達成できた項目は継続して取組めます。また、目標値と大きく乖離がみられる項目については目標設定を再検討します。

次年度以降では全ての目標を達成できるようより一層努力します。

15年を振り返って



上のグラフは、エコアクション21の認証を受けた当初年度(H21年度)からのCO₂排出量を項目別で表したものです。

当社のCO₂排出量の約8割は、軽油が占めており、業務内容として冬期間は除雪作業があるため、降雪量が多い年は除雪機械の出動頻度に伴い軽油使用量も増加します。

今年度で15年もの月日が経過しましたが、改めて振り返るとCO₂総排出量は一定数の間(約30~40万kg-CO₂)を推移しており、令和5年度は過去10番目に少ない結果となりました。

一方で、当社の従業員は当初年度よりも増加している(18名→21名)ため、従業員一人当たりのCO₂排出量は相対的に下がっており、燃料などの無駄をなくすために全社的な活動が継続してできていることに非常に感謝したいと思います。

環境経営計画の内容・取組結果の評価

1.電気によるCO₂排出量の削減

【取組内容】

ウォームビズ・クールビズの
推奨

空調設備の
暖房 20℃・冷房 28℃設定

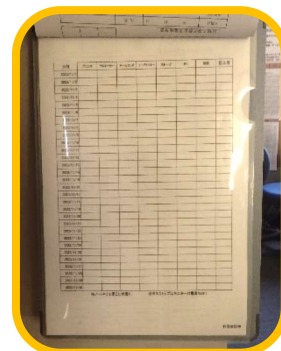
使わない部屋の照明を OFF

帰宅時の電化製品の OFF 確認
(チェックシートに記入)

13 気候変動に
具体的な対策を

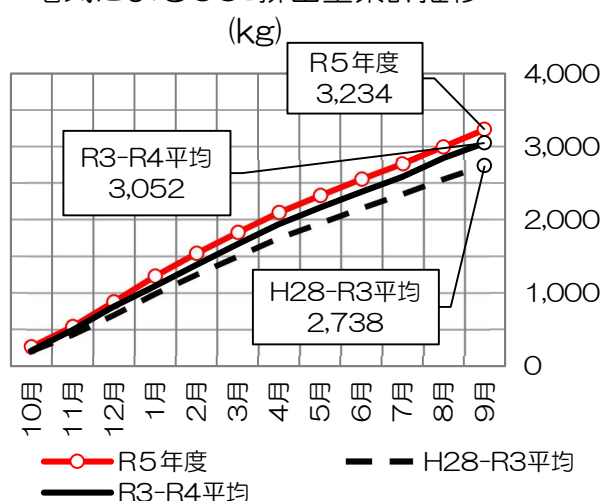


退室時に電化製品の付けっぱなしがないかを確認し、チェックシートに毎日チェックと名前を書くことで責任体制の見える化を行いました。

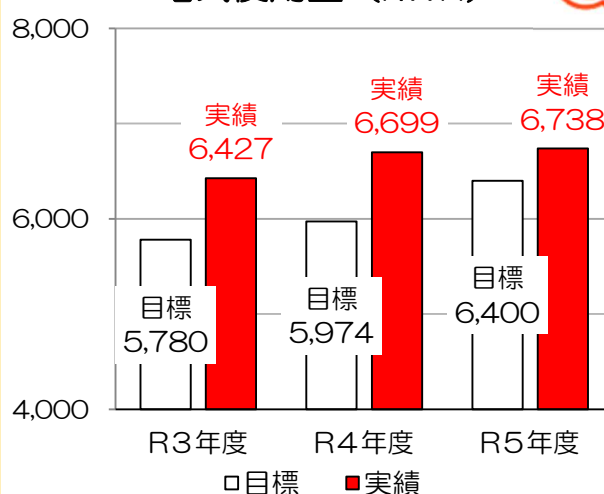


【取組の結果】

電気によるCO₂排出量累計推移



電気使用量 (kWh)



CO₂排出係数 : 0.480(令和 4 年北陸電力送配電 HP より)

今年度の電気使用量は、目標値(6,400kWh)の+5.2%となり、目標を達成できませんでした。特に1月～3月に目標との乖離がありました。大きな要因として、今年度は例年よりも降雪量が少なく、現場での除雪作業の頻度が少ない分、空調を使う頻度が多かったことが挙げられます。また、部屋をなるべく早く暖めるためエアコンと灯油ヒーターを併用していますが、しばしば天井と足元での温度ムラがあることが見受けられました。

【評価及び次年度の取組】

令和 3 年度より電気使用量は大幅に増加しており、目標設定値については改めて見直します。

次年度は特に冬季においては重点的に管理を行います。朝の採暖における空調の使用手法や、設定温度よりも風量の調節を工夫し、部屋全体の空気を循環させるなどを行っていきます。また、チェックシートの内容を更新し、社内全体で意識向上を図り、節電に注力します。

2. ガソリンによるCO₂排出量の削減

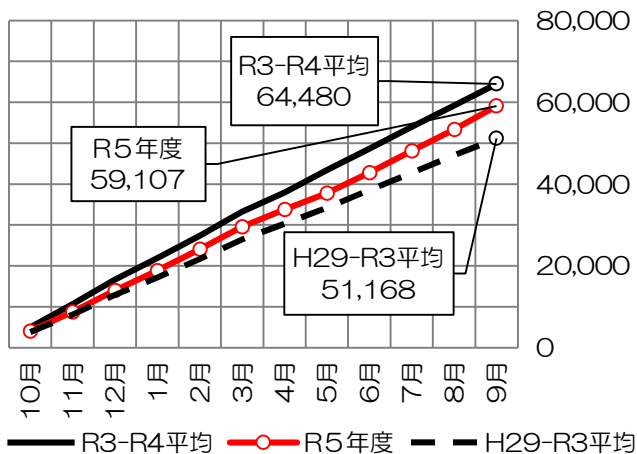
【取組内容】

機械経費・燃費を
掲示し随時チェックタイヤの溝をチェックし
新しく交換するエコ運転(急加速・急減速の廃止)
の実施

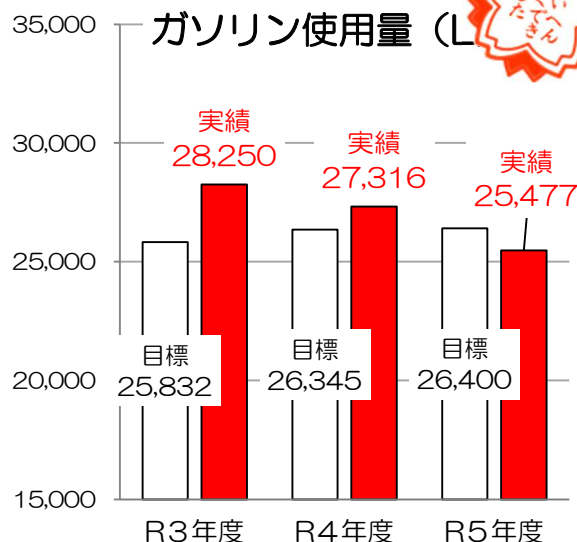
遠方の現場へ乗合わせる

13 気候変動に
具体的な対策を

社員全員がいつ
でも見られるよう、
1階工事室に機械
経費・燃費報告の
掲示物とポスター
を設置しました。

ガソリンによるCO₂排出量
累計推移(kg)

ガソリン使用量 (L)

ガソリンのCO₂排出係数：2.32

今年度のガソリン使用量は、目標値(26,400L)の-3.5%となり、目標を達成できました。また、過去2年平均(27,783L)よりも約2,000Lもの削減ができました。

今年度は事務所近くのガソリンスタンドの閉所や、事務所から20km以上の遠方での現場施工もあり、厳しい条件での施工でしたが、現場への積極的な乗合せや計画的な車両の使用、低燃費車両やタイヤの買い換えを行い、燃費が向上し、社員一人一人の工夫が実りました。一方で、休憩中で不要なアイドリングがあったとの報告も受けているため、改めて呼びかけることが必要とされます。

【評価及びの次年度の取組】

次年度以降は人数や設備などの大きな変更がない限り、目標値を固定し、改めて会社全体で取り組みを継続します。

3. 軽油による除雪期間のCO₂排出量の削減

【取組内容】

除雪機械の空吹かし・
暖気時間を最小限にする

車両の空吹かしを
最小限にする

静かな運転を実施する

低燃費・低排出型車両への
移行



新任の除雪オペレータ教育を行い、除雪技術力の向上と静かな運転ができるように努力しました。



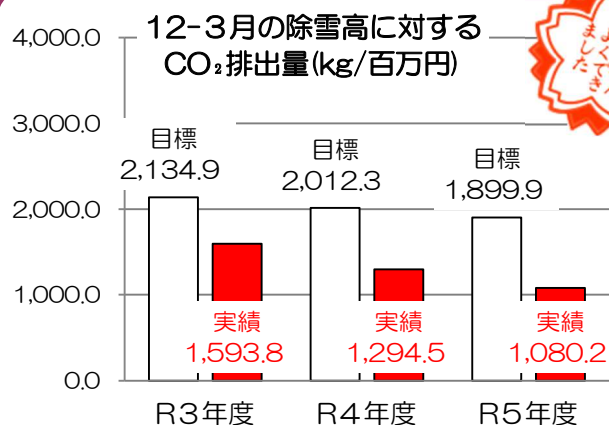
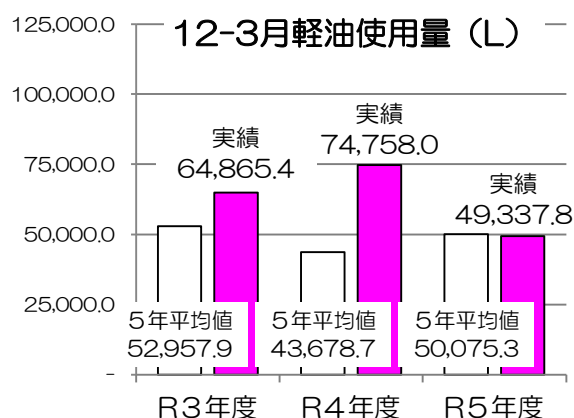
11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を



【取組の結果】



軽油のCO₂排出係数: 2.58

※軽油使用量は、春秋の工事受注数や規模に応じて変動が激しい為、除雪期間(12-3月)の除雪高に対するCO₂排出量で評価しています。

今年度の除雪高に対する軽油によるCO₂排出量は、目標値の -43.1%となり、目標を達成できました。軽油の使用量は5年平均と同程度でしたが、除雪売上高は降雪量が多かった前年度の約8割にとどまり、CO₂排出量の比率が下がりました。新任の除雪オペレータ教育を行ったことで指導する側・される側のそれぞれが除雪方法を見直すようになり、生産性やモチベーションの向上につながったのではと考えます。

【評価及び次年度の取組】

今年度は、目標値との大きな乖離が過去3年間の中でも特に目立ちました。今後はより現況に沿った目標設定をする必要があると考えられます。次年度では、掲示物のデザインを変更し、注目度を高めることで、社員の意識の向上を図ります。また、冬季に限らず年間を通して環境にやさしい運転を実施し、軽油の使用量の削減を行います。

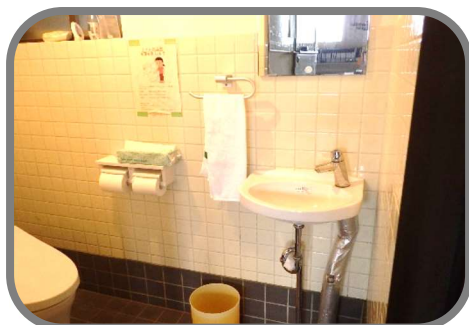
4. 可燃ごみ排出量の削減

13 気候変動に
具体的な対策を

【取組内容】

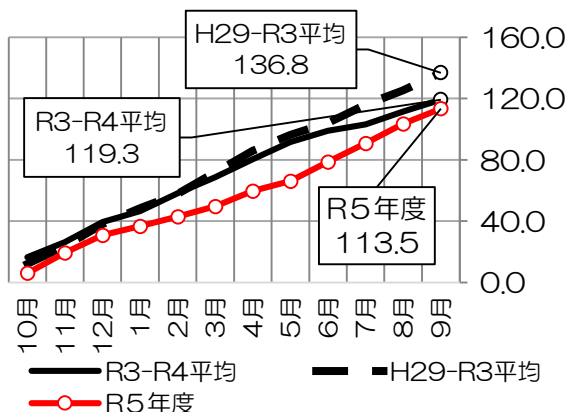
プラスチックは資源ごみへ
分別の周知印刷前のプレビュー確認で
印刷ミスを減らすペーパータオルと
布タオルとの併用を再開

可燃ごみの重量を計測・把握

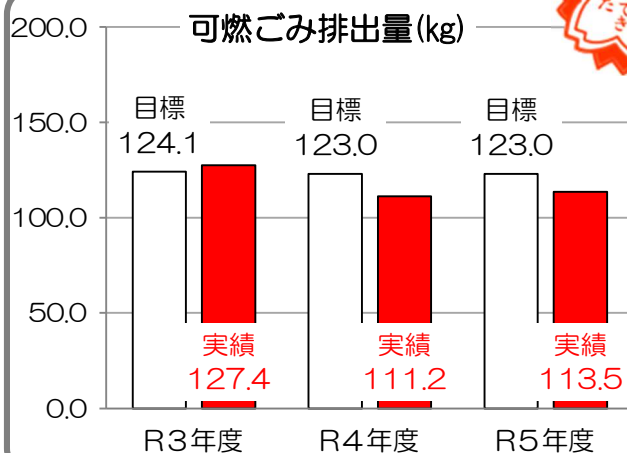
4月以降は布タオルの使用を
再開し、ペーパータオルとの
併用に切り替えました。ペットボトルのキャップをさ
いれいにするためにボウルに水
を張り、分別しやすくしまし
た。

【取組の結果】

可燃ごみ排出量累計推移(kg)



可燃ごみ排出量(kg)



産業廃棄物 再生資源利用促進率	目標	R3 年度	R4 年度	R5 年度
	100%	100%	100%	100%

今年度の可燃ごみ排出量は、目標値(123kg)の -7.7%となり、目標を達成できました。特に1月から5月までが目標値との大きな乖離があり、除雪の頻度に伴う除雪休憩での飲食が減少したことや、春先に直行直帰の業務が入ったことが要因だと考えられます。また、4月からは布タオルの使用を再開したことで、2ヶ月に1度購入していた分(6か月間推定 9.75kg)の削減も貢献したと考えられます。

産業廃棄物においても、前年度同様に目標の100%を達成し、維持することができました。

【評価及び次年度の取組】

現在は菓子箱などの大きなものが可燃ごみとして扱われているため、新たに「雑がみ」の分別・資源化を試みます。また、シュレッダーは資源ごみではなく可燃ごみとなるため、印刷ミスとならないように画面上での印刷前チェックやレイアウトを工夫することを呼びかけていきます。

5. 水の節水努力の維持及び漏水調査・管理



【取組内容】

帰宅時の水道チェックリスト
へ記入する

車両の清掃や植物の散水は
自然水を使用する

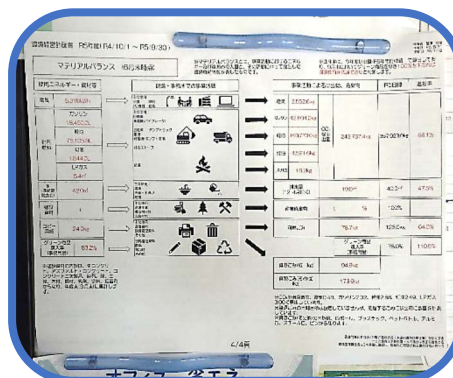
手洗いで節水を呼びかける

冬季は漏水の確認をする

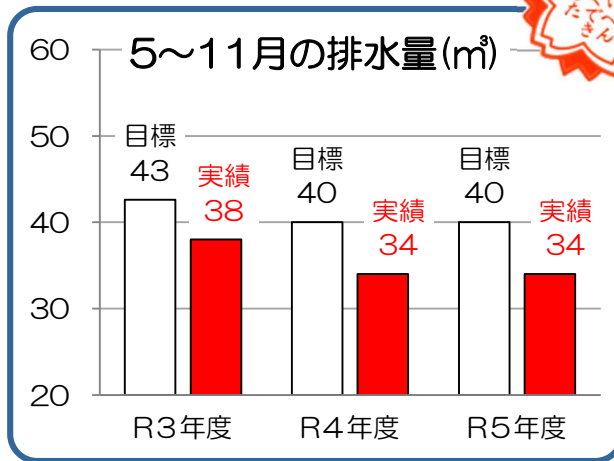
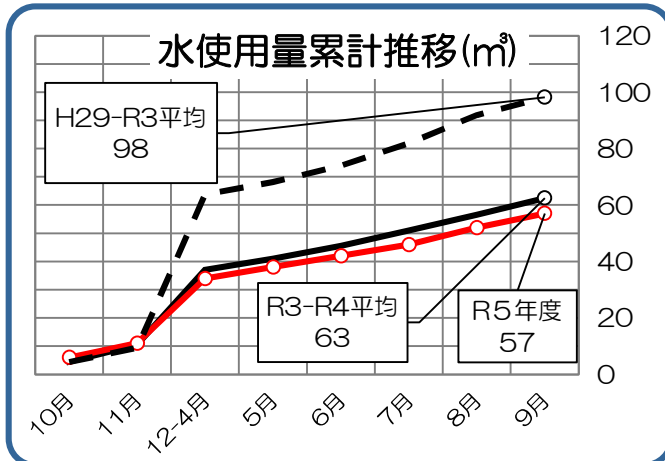


POP をシンク近くの見やすい場所に貼り、節水を呼びかけました。

行動計画表のデザインを変更し、使用量と進捗状況を一目でわかるようにしました。



【取組の結果】



※12月～4月は積雪のため、1か月ごとの計測ができないほか、冬季は水道凍結防止の為にやむを得ず排水を行うので実績には含んでいません。

【取組の結果】

今年度の11月から5月までの水使用量が目標値(40 m³)の -15%となり、目標を達成できました。要因として機械や車両の清掃、植物の散水に自然水を利用しているほか、定期的に手洗いで節水の呼びかけたことにより、個人の意識が向上したことなどが挙げられます。また、冬季は対象外ですが、令和3年度の事務所内を改修して以来、水回りの凍結がみられなくなりました。

【評価及び次年度の取組】

過去の実績から、冬季を除く水使用量は年に40 m³あるいは1か月5 m³が目標値の水準であると推察し、目標値と定めます。今後も継続し、節水の意識向上に努めます。

6. 環境に配慮した商品の購入推進

【取組内容】

グリーン商品を把握・購入する
(定期的な商品のチェック)

購入商品リストを掲示し、
社内全体で見える化を行う

12 つくる責任
つかう責任

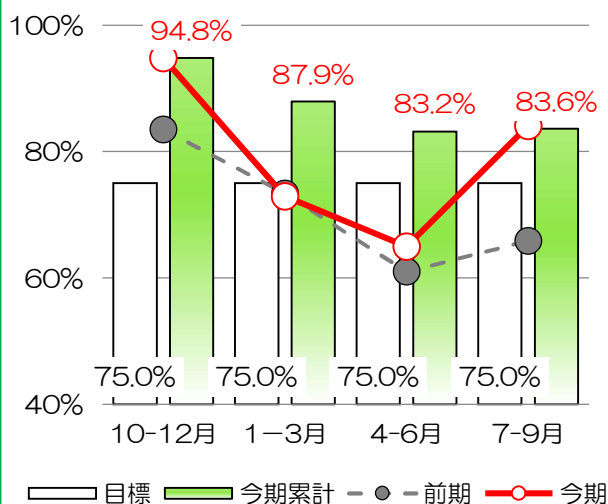
コピー用紙は
100%再生紙を今
年度も継続して購
入しました。

年度内に購入した商品の一例

・アルカリ乾電池	・コピー用紙 A4、A3	・純正インク	・ファイルボックス
・インデックス	・シャチハタ	・デスクトレイ	・ふせん
・替え芯	・修正テープ	・電動シャープナー	・三菱鉛筆
・紙ひも	・修正ボールペン	・ネームランド	・油性ペン黒
・クラフト封筒	・手動シャープナー	・ファイル	・ラベルシール
・CD-R プラケース	他		

【取組の結果】

事務用品のグリーン商品の購入率
(金額)



今年度のグリーン商品の購入金額率は目標(75%)
の+8.6%となり、目標を達成できました。今年
度は物価高も心配されましたが、グリーン商品
の種類は年々増加しており、購入者としての立
場からでもより気軽に取り組みやすくなりました。

【評価及び次年度の取組】

中間審査では環境に配慮した商品は金額の代
償があるため、金額ベースの数値目標ではなく
行動目標にしてはどうかとの提案がありまし
た。そのため、次年度以降では行動目標へと変
更することとします。次年度においては購入品
目を明確にしたり、節目ごとの意識づけができ
るように声掛けに工夫をしたりするなどに注力
します。

7. その他の取組み

・灯油使用量の削減

13 気候変動に
具体的な対策を

1 階階段と給湯室に間仕切りを設け、工事室内が適温になるまでの時間を短縮しました。



工務室にエアコンを設置し、夏季は冷房の導入、冬季は灯油ストーブとの併用で快適に事務作業を行えるようにしました。

【取組結果】

10-4 月 電気・灯油と CO ₂ 排出量変化	電気使用量 (H30 年度比)	灯油使用量 (H30 年度比)	CO ₂ 排出量※ 合計	H30 年度との 排出量合計比較 (CO ₂ 削減率)	備考
H30 年度	4,141kWh	3,968L	11,868kg	-	エアコン(AC)設置前 階段・給湯室 間仕切設置
R 元年度	3,944 kWh (-197kWh)	2,968L (-1,000L)	9,283kg	-2,584kg (-21.8%)	総務室 AC 設置
R2 年度	3,479 kWh (-662kWh)	2,655L (-1,313L)	8,281kg	-3,587kg (-30.2%)	
R3 年度	3,988 kWh (-153kWh)	2,691L (-1,277L)	8,615kg	-3,253kg (-27.4%)	工務室 AC 設置 給湯室 間仕切設置
R4 年度	4,335 kWh (+194kWh)	2,260L (-1,708L)	7,708kg	-4,160kg (-35.1%)	
R5 年度	4,368 kWh (+227kWh)	1,844L (-2,124L)	6,688kg	-5,180kg (-43.6%)	

※電気の CO₂排出係数：0.48 灯油の CO₂排出係数：2.49 により計算

事務所内に空調エアコンを新たに導入したことにより、エアコン設置前(H30 年度)からの灯油使用量は 2,124L 減少し、CO₂排出量は 5,180kg もの削減ができました。一方で電気使用量は 5%増加しましたが、灯油の削減量と比較すると電気の CO₂排出量が非常に低いため、結論として冬季の CO₂排出量の削減に大きく貢献しました。

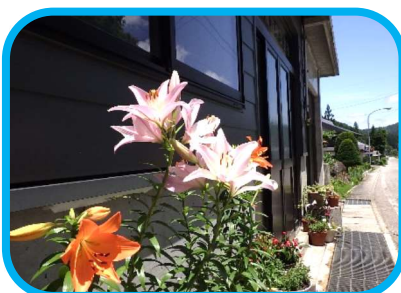
・車両の買い換え

多くの社員が社用車を使用していますが、どの車両も舗装がされていない現場へ乗り込むことが多く、経過とともに燃費の低下や修理費用がかさむなどの課題がありました。そこで、令和3年度より徐々に機械や車両の買い換えを行い、燃費の向上や修理頻度の減少により、安全・生産性の向上へとつなげることができました。

かやぶき(3474)	燃費 6.9 km/ℓ	→	エルフ(6053)	燃費 8.8 km/ℓ	1.9 km改善!
ハイゼット(2944)	燃費 10.5 km/ℓ	→	軽トラ(6123)	燃費 14.1 km/ℓ	3.6 km改善!
エルフ(2161)	燃費 6.3 km/ℓ	→	ダイナ(8579)	燃費 8.3 km/ℓ	2.0 km改善!

【取組結果】

・環境緑化への貢献



事務所前にプランターを配置し、花を植えることで会社のイメージアップを図りました。



瞑想の郷(めいそうのさと)で地元の方と一緒に花壇に花を植え、地域貢献を行いました。

・事務所周囲環境の美化



before

分別の際に内容物がないかをチェックし、綺麗に並べて環境の美化に努めました。



After

次年度環境経営計画

環境方針	項目	R6 年度目標	目標達成手段
CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 総排出量	CO ₂ 総排出量の削減 年間排出量 387,000(kg-CO ₂)	・効率的な施工方法の打合せ ・手戻りの無い工程管理 ・重機の静かな運転 ・車両・機械のメンテナンスの徹底
	電気	CO ₂ 排出量の削減 年間使用量 6,700 kWh	・暖房 20℃設定 ・冷房 28℃設定 ・クールビズ・ウォームビズの推奨 ・電源チェックシートの運用
	ガソリン	CO ₂ 排出量の削減 年間使用量 26,500 L	・急発進・急停車の廃止 ・不要なアイドリングの削減 ・車両の燃費を把握
	軽油	除雪工事高に対する CO ₂ 排出量の抑制 1311.0 kg/百万円	・除雪時は静かな運転に努める ・低燃費、低排出型車両への移行 ・除雪オペレータの指導、教育
廃棄物量の削減	可燃ごみ	可燃ごみ排出量の削減 年間排出量 120 kg	・社内、現場での分別の推奨 (プラスチック・可燃) ・コピー用紙の裏紙、両面印刷の徹底 ・雑がみの分別項目の追加
	産業廃棄物	産業廃棄物の 再生資源利用率 100%	・現場廃棄物の分別の徹底 ・発注者との事前協議
排水量の削減	水道	5-11 月排水量 40 m ³ 年間排水量 60 m ³	・水道量の把握・チェックシートの運用 ・用水の利用(植木への散水等に使用)
環境に配慮した商品の購入推進	エコ商品	環境に配慮した商品の 購入の実施	・グリーン商品の把握・周知・購入 ・ラベルレス飲料の購入実施 ・100%再生紙の購入実施

※（目標設定において R3-R5 平均値を基にしており、目標達成を目指します）

建設業に関わる主な関連法規等

環境法規制等の名称/略称	該当する活動	評価
環境基本法	自然環境の保全措置	○
グリーン購入法	環境に配慮した物品の購入	○
地球温暖化対策推進に関する法律	温室効果ガス排出の抑制	○
環境配慮事業促進法	事業活動に係る環境情報の提供	○
廃棄物処理法	産業廃棄物処理委託契約、許可証の確認、 マニフェストの保存義務	○
リサイクル法	建設副産物の再利用、再資源化の促進	○
建設リサイクル法	分別解体、再資源化の促進	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正な処分	○
オフロード法	基準適正機械の利用	○
消防法(危政令)	第2 石油類軽油等：2000L タンクローリーの保管	○
富山県景観条例	事業活動を通じて地域の景観づくりに寄与	○
南砺市廃棄物の減量及び 適正処理に関する条例	廃棄物の適正な処理	○
特記仕様書	特記仕様書に準ずる施工	○

弊社は、建設業に係る環境関連法規（富山県や南砺市の条例も含む）について
すべての適正法令を遵守しており、訴訟もありません。

代表者による全体の評価と見直しの結果

対象	変更の有無	評価
環境方針	☐ 有／ ☒ 無	今後も環境方針は変えずに取り組んでいく。
目標	☒ 有／ ☐ 無	ほとんどの活動が目標の限界に来ていることは承知している。エコ商品の購入を数値目標から行動目標へ変更。
計画	☒ 有／ ☐ 無	従業員数や改修により電気使用量や燃料の使用などに変化があり、現状により合致したものに変更。
実施体制	☒ 有／ ☐ 無	各担当者の努力に敬意を払いたい。若年層のメンバーを責任者に追加し、全体的な取り組みを心掛けたい。
その他	☐ 有／ ☒ 無	今後もコミュニケーションを大事にして、環境経営に取り組む。

代表者による全体総括

環境経営の継続によって社員の意識向上もあり、今年度も有意義な取り組みになったと思います。目標を達成できなかった部分についてはそれぞれ理由と対策を考えて次年度に繋げてもらいたいです。今後も安定した実績を維持していくことを目標に取り組んでもらいたいと思います。

2050年のカーボンニュートラルへの貢献に向けて、身近な所では南砺市においてはSDGsパートナーへの登録を行うなど、当社として出来るところから参画していきたいように考えています。自治体等とも連携して更に環境経営を発展させていきたいところです。

環境に配慮した経営に取り組むことにより、地域社会や会社がより良くなっていくと確信しています。日々の仕事の中でという一番身近な所から「持続可能な社会・会社」への発展を考えて行動ができる資質を社員ひとりひとりが身につけていくことを願っています。

自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして当社はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一步一步着実に環境経営に取り組んでいきたいと思います。

野原建設株式会社 代表取締役 野原 一司

評価日：令和5年 11月 17日